

年間授業計画

科目名	歴史総合	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 全学科	展開	必修	選択
教科書名	わたしたちの歴史 日本から世界へ(山川出版社)			副教材名				
科目の目標	歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
学習内容と進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と授業プリントを利用した学習を中心として行う。 ・歴史的な見方・考え方を働かせ、今も残る歴史的な問題について広い視野で追究・解決する能力を育成するための学習を行う。 ・内容によってはグループでの課題解決学習も行う。 							
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> (1) 常に復習し、反復練習によって、問題を解く力を身につけさせる。 (2) 課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。 							
月	単 元	授業時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)	
				1	2	3		
4	第1部近代化と私たち 近代化への問い ①交通と貿易 ②産業と人口 ③権利意識と政治参加や国民の義務 ④学校教育 ⑤労働と家族 ⑥移民 1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合	8	<ul style="list-style-type: none"> ・交通と貿易、産業と人口などの各テーマに対して、諸資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。 ・18世紀のアジアにおける経済や文化の発達と同時代のヨーロッパ諸国の対外進出との関係について考察する。 ・開国や通商開始にあたり、日本が結んだ条約の特徴について考察し、理解する。 ・18世紀後半以降の欧米諸地域で市民革命がおこった背景について考察し、理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各テーマについて、諸資料から交通の発達や貿易の拡大が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・18世紀のアジアにおける経済や文化の発達と同時代のヨーロッパ諸国の対外進出との関係について理解されている。 ・開国から通商開始に至る経緯を理解できている。 ・資料や図版などから、自然法思想・社会契約説と市民革命の関係について考察し、表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
5	8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合	8	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の滅亡から明治政府成立の過程や明治新政府がどのようにして天皇中心の新国家を建設したかを理解する。 ・明治初期の日本が抱えていた外交課題について考察し、理解する。 ・大日本帝国憲法が制定される過程と憲法の内容や特徴を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・大政奉還から戊辰戦争まで過程を理解し、幕府側の思惑と倒幕派の反応について考察し、表現できている。 ・明治初期の外交について理解し、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 ・大日本帝国憲法の制定過程や憲法の内容を理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
6	第2部国際秩序の変化や大衆化と私たち ①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソ連の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化 1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調	8	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義時代における世界分割の特徴や列強間の国際関係の再編を考察、理解する。 ・日清・日露戦争から韓国併合に至る過程について理解する。 ・国際関係の緊密化に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。 ・第一次世界大戦がおこった背景や開戦から終結までの経過を理解する。 ・第一次世界大戦の「総力戦」としての性格について考察し、理解する。 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次産業革命の進展が帝国主義につながっていくことを理解し、現在の公用語にも繋がっていることを考察できている。 ・日清・日露戦争の一因に韓国をめぐる日本と清国及びロシアとの対立があったことを理解し、韓国併合による影響を考察できている。 ・第一次世界大戦開戦直前の国際関係を理解し、資料や図版などから、「総力戦」の意味と第一次世界大戦が総力戦となった要因を考察し、表現できている。 ・第一次世界大戦後における国際協調の広がりについて、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7	7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立 第3部グローバル化と私たち ①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存 1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」 3 冷戦の展開 4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化	8	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌がおきた原因とその後の各国の対応について考察し、理解する。 ・ファシズムと呼ばれる政治体制が成立した原因とその特徴について理解する。 ・太平洋戦争勃発に至る経緯や日本の戦争目的などを考察し、理解する。 ・国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、理解する。 ・冷戦開始の背景とその後の東西両陣営の動向について理解し、考察する。 ・戦後改革の目的と成果や日本国憲法の制定過程や憲法の特徴について理解する。 ・朝鮮戦争やサンフランシスコ平和条約と日本の独立との関係を考察する。 ・冷戦・国際関係、資源・エネルギー・地球環境などの各テーマに関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。 ・第二次世界大戦後におけるアジア諸地域の独立過程を理解する。 ・新安保条約をめぐる安保闘争の経過について理解する。 ・高度経済成長の過程を理解する。 ・ベトナム戦争からアメリカの対東アジア政策が転換したこと理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌に対する各国の経済政策を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・ファシズム体制が成立した国とこの体制の特徴を理解できている。 ・資料や図版などから、第二次世界大戦に向かう国際関係の特徴やドイツの行動について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察できている。 ・ヨーロッパにおける冷戦の推移を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・資料や図版などから、サンフランシスコ平和条約や独立後の日本の課題について考察し、表現できている。 ・冷戦や国際関係などの各テーマについて、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 ・アジア諸地域の独立過程を地域ごとに理解できている。 ・資料や図版などから、安保闘争が高揚した原因について考察し、表現できている。 ・高度経済成長の負の側面が生じたことを理解できている。 ・ベトナム戦争がアメリカに与えた影響について、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
8	8 日本の経済大国化 9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争 13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題 いまの私たちにつながる課題	8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安定成長からバブル景気に至る過程とバブル景気崩壊後の経済の低迷について理解する。 ・アジアで経済成長を成し遂げた国や地域の特徴について考察し、理解する。 ・社会主義が停滞した原因について考察し、新自由主義の特徴と問題点を理解する。 ・冷戦終結後に世界各地で地域紛争が頻発した背景について考察し、理解する。 ・現代世界の諸課題と解決に向けての方策について考察し、理解する。 ・対立・協調・開発・保全の観点から、これまでの学習を振り返り、それに関する諸資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の貿易黒字の増大が省エネや技術革新によるものであったことを理解できている。 ・アジアの経済成長には地域的な偏りがあることを理解できている。 ・社会主義の停滞と新自由主義の対等の関係について、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 ・冷戦終結後の地域紛争について地域ごとの具体的な事例とあわせて理解できている。 ・現代社会の諸課題の解決に向けて、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 ・現代の日本が抱える諸課題の解決に向けて、見直しをもつて学習に取り組もうとしている。 ・対立・協調・開発・保全について、よりよい社会の実現を視野に、1年間の学習をまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> (1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。 							
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる事柄について、広い視野から捉え、近現代の歴史を理解できる。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。						
	2思考・判断・表現	学習した内容や調べた内容を多面的・多角的に考察する。またその考察したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。						
評価基準	3主体的に学習に取り組む態度	現在と過去の関連性を認識し、現代の世界における諸課題への関心を深めている。また、諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができる。						
	1知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> A 基本的な概念や知識を体系的に理解している。 B 基本的な概念や知識を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念や知識を体系的に理解が不十分である。 						
	2思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> A 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身につけている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけていない。 						
	3主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> A 社会や世界と関わるために、積極的に歴史的知識を活用しようとしていたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 社会や世界と関わるために、積極的に歴史的知識を活用しようとしていたり、考えたりしようとしている。 C 歴史的知識を活用しようとしていたり、考えたりしようとしていない。 						